

第306回例会報告 (2008年7月7日)

- ・ガバナー補佐である土谷享氏 (札幌南RC) が来訪されました。
- ・本年度会長から活動計画が発表されました (会長の代理で高橋幹事より)。
- ・本年度幹事から活動計画が発表されました。
- ・本年度クラブ奉仕委員長から活動計画が発表されました。

第307回例会予定 (2008年7月14日)

- ・各奉仕委員長から活動計画の発表

第308回例会予定 (2008年7月28日)

- ・ほっとパーティー

環境問題基礎知識 (第1回: パーチャル・ウォーター)

水は大事です。人間は、水を全く補給しないと、1週間もすれば死んでしまうと言われています。

日本人は水と安全は無料だと思っている世界でも数少ない民族だとのあまりにも有名な指摘があります (イザヤ・ベンダサン「日本人とユダヤ人」1970年)。我々は、無邪気にも、日本は「水の豊かな国」という認識を有しているかもしれません。

しかし、果たして本当に日本は「水の豊かな国」なのでしょうか。

日本は、実は水の大量の輸入国です。なぜならば、日本は食糧自給率が低く、海外から大量の食料を輸入しているからです。

食料を輸入することが、何故水を輸入することになるのでしょうか。それには、パーチャル・ウォーター (仮想水) の概念を説明しなければなりません。

穀物や食肉を生産する為には、当然のことながら、水が必要です。日本が輸入している食料は海外の水を大量に使って生産されたものです。この穀物や食肉に形を変えた輸入水をパーチャル・ウォーターといいます。

日本では年間640億立方メートルの大量の水を輸入していると言われています。現在、約12億の人が (世界人口の20%相当)、安全な水を手に入れることができず、年間数百万人が汚れた水を飲んだために死亡しています。もちろん、その中には子どもも含まれます。日本の食生活は、水不足で苦しんでいる人たちの犠牲の上で成り立っているものなのかもしれません。